



episode.08
**伝説の岩剣山
～城と神と言葉～**

話し手 始良市歴史民俗資料館 館長
しもづる ひろし
下鶴 弘さん（昭和32年4月8日生）

聞き手 川島学園 れいめい高等学校 2年
2年 新屋 祭 2年 永留 惇希
2年 丸山 輝人 2年 西谷 勇生斗
2年 松井 諒磨



「城だけではない岩剣山」

岩剣山の裾に岩剣神社があります。昔はこの山の頂上に上宮という神社があったんですよ。

岩剣神社は、山自体を神様として拝んでいます。山体信仰とか山岳信仰という古くからある宗教で、例えば富士山とか霧島の山とかもですね。岩剣山がある重富周辺の人達がいつから信仰対象として拝んでいたか、詳しくは分かっていないんですが、数百年以上前からあると思います。

頂上にお参りするのができない人もいるので、江戸時代になると簡略化して、麓で拝んでいた所に社殿ができて岩剣神社の本社になったようです。

岩剣山をお城にした理由もそこですよ。神様がいたから“神様ならいつも拝んでいる自分達を守ってくれるんじゃないか”と思って、そこをお城にしてみたいですね。神社と山城というのは意外とつながりが深いんですよ。

「好奇心を燃やせ」

この仕事で大切なのは、まずは自分自身が好奇心を持ってやるってことです。

今、たまたま連絡があって取り組んでいることがあります。それはインドネシアの独立に向けて活躍した始良出身の海軍の軍人さんを調べることです。ご本人も亡くなっていて情報がないですが、これが結構面白くてですね。ちょっとずつ調べていると、いろんな所にヒントがあるんですよ。

何事も興味を持って深掘りしてみるもんですよ。知的好奇心を失わないということは大事ななと思いますね。



「岩剣城の歴史」

岩剣山に城が作られたのが、1529年頃、戦国時代ですね。中世のお城って、普通は地面を掘って空堀を築くんですね。鹿児島だとシラス台地で作りやすいんですけど、岩剣山って名前の通り、とんがった丘が岩石でできているんですね。三方向が崖なので要害の地と言えますが、その分工事をするのは大変だったと思います。

その当時、ここは大隅国で、薩摩国との国境に位置していました。岩剣山の裏には吉田方面へ抜ける道もあったみたいで、交通の要所とも言えます。

1554年、島津氏15代当主 島津貴久が、当時19歳の息子 義弘（17代当主）を連れて攻めてきました。これが「岩剣城合戦」で両軍ともに鉄砲を用いた激戦だったようです。最終的には島津氏が勝利を取めました。

それから、山のお城に常時住むのも不便なので、麓の「星原」という所に居館となる平松城を築いたんですね。現在は、重富小学校があるところですよ。今、小学校にある石垣は、その後作られたものです。

「言葉に残る歴史」

平松城を作った「星原」という地名の“星”の字はおそらく当て字だと思います。本来は、「干原」干された原っぱ。乾いた土地という意味で、あんまり利用されていない土地だったと思います。そこを整備したということでしょうね。

今、平松城跡地にある小学校の校門の左手には、「剣の平みておれ ぼくらは がんばるぞ」と書いてますね。この“剣の平”は岩剣山のことです。“平”っていうのは“たいら”という意味じゃなくて 急傾斜のことです。鹿児島にも苗字で「比良（ひら）」さんっているんだけど、九州の方言で、急傾斜のことを“ヒラ”“ピラ”っていいます。他にも“シラ”もいいますね。「白」で“シラ”というのは、これも急な崖。例えば、国道10号線沿いの崖なんかも、やっぱりシラと言ったりしますね。

